

もっと知りたい、健康のこと。

静岡赤十字病院広報誌

2026年・新春号

vol.377

|季刊発行|

日赤News

ほっとニュース

医師事務作業補助者(医療秘書)の
仕事を紹介します

【特集】

早期発見・早期治療がカギ!

誰もがなり得る関節リウマチ

information

第6回 市民公開講座開催のご案内

しずおかクロス NAVI

令和7年度 救急医療功労者知事表彰を受賞

2号館立体駐車場営業終了のお知らせ

写真は当院で働くスタッフが毎号出ます。

今号のテーマ: 関節リウマチ

早期発見・早期治療がカギ!

誰もがなり得る 関節リウマチ

国内患者数は推定100万人、つまり日本人の約100人に一人が罹患している関節リウマチ。完治が難しく、多くの方が症状に悩んでいます。近年治療薬が大きく進化し、選択できる治療の幅も広がってきているそう。詳しいお話を村松医師に伺います。

教えて
ドクター
Q & A

リウマチ内科
村松 瑞穂 部長

フェミニンで優しい印象の村松先生。趣味はスポーツ観戦で、野球にサッカー、ラグビー、相撲などオールジャンルで楽しんでいるそう。「開幕間近のミラノ・コルティナ五輪は、ビール&チーズをお供に楽しめます♪」

Q 膠原病とはどのような病気ですか。

A 膠原病とは、本来自分の体を守るはずの免疫の働きが、何らかの原因で自分の体を攻撃してしまう自己免疫疾患のこと。今回お話しした関節リウマチの他に、全身性エリテマトーデス、強皮症、シェーグレン症候群、多発性筋炎・皮膚筋炎、血管炎などがあります。

Q 関節リウマチの初期症状はどんなもの?

A よく見られるのは手のこわばりです。朝起きた時に手や体が動かしにくい、着替えや歯みがきなど日常的な動作がスムーズにできないなどの違和感が長く続いているような場合は、早めの受診を検討してほしいところ。ただ実際には、こうした症状は徐々に進んでいくため患者さん本人も自覚しづらく、「ある日突然違和感に気づく」ということはなかなかありません。治療のスタートが早ければ早いほど、症状を軽く抑えられる可能性が高まります。「おかしいな」と感じたら、かかりつけの内科や整形外科など身近なクリニックに相談してみてください。



年代性別を問わず、誰もが 発症し得る膠原病の一種

関節リウマチは膠原病の一種で、手足の指、手首や足首、肩や膝など、全身の関節に痛みや腫れが出て、動かしにくくなったり、歩きにくくなってくる症状が出ます。人によっては発熱や食欲の低下、むくみが出たりすることもあり、症状が進むと関節の破壊が進行し変形してくることもあります(図1)。

30～50代女性に多い傾向がありますが(図2)、高齢化が進んだ近年では70代以上の高齢者にも増えていて、この年代では男女による差はほとんど見られません。また10～20代で発症することもあり、あらゆる世代・性別で発症しうる病気だと考えてよいでしょう。

原因は先に述べた免疫の異常によるものですが、なぜ免疫異常が起るのかははっきりわかっていません。発症には遺伝的要因や、喫煙や感染症、ストレスなど環境要因の影響がありますが、家族がリウマチだからといって必ず遺伝することではありません。

発症部位も多岐にわたります。若年代で関節リウマチを発症した場合は、手足の指など小さな関節に症状が出やすいですが、高齢発症では肩や膝など大きな関節に出やすい傾向があります。また、最初は手指に症状があっ

たが、その後さらに別の部位にも発症する、ということもあります。

医薬技術の進歩によって 広がる治療の選択肢

関節リウマチが疑われる場合、病院ではまず血液検査を行い、炎症反応の程度(CRP、血沈)、リウマチ因子・抗CCP抗体などを調べ、さらにレントゲンや超音波によって関節の炎症や骨の変化を詳しく調べます。関節リウマチの中には抗体検査で陰性となるものもありますし、関節リウマチ以外の膠原病にも関節痛の症状が出るものがあります。またリウマチと症状がよく似た病気でもリウマチ性多発筋痛症という別の疾病もあるため、複数の検査を組み合わせて、総合的に診断をつけていきます。

治療は薬物療法が中心。初期症状には「メトトレキサート」などの抗リウマチ薬を投与し、症状が特に強い場合にはステロイドを使うこともあります。抗リウマチ薬を使用しても効果が不十分な場合、生物学的製剤(注射薬)やジャック阻害薬(内服薬)を使います。効果は個人差があるため、専門医が患者さん一人ひとりに合わせた薬を選択していきます。

一度発症すると完治が難しい関節リウマチですが、この20年ほどで医療技術は飛躍的に進化。以前は寝たきりや手術が必要なケースもありましたが、近年特にジャック阻害薬の

種類が増え、患者さんに合わせた治療の選択肢が広がったことで、症状の進行はより効果的に抑えられるようになっていきます。
とはいうものの、最も大切なのはやはり早期の発見と治療。気になる症状があれば、まずは身近な病院やクリニックを受診することを勧めます。

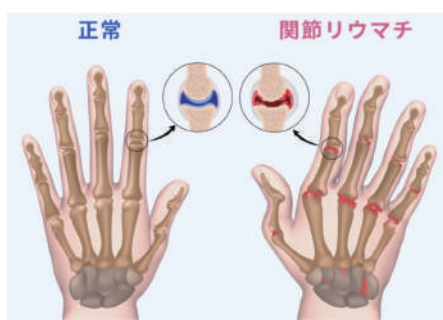


図1 関節リウマチ(手指)

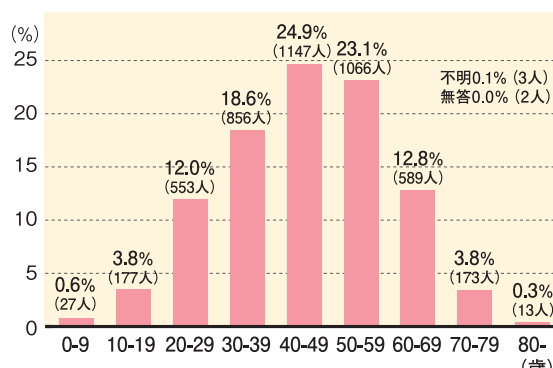


図2 「2020年リウマチ白書」(公社)日本リウマチ友の会より

INFORMATION

2号館立体駐車場 営業終了のお知らせ

2026年3月31日をもちまして、2号館呉服町通り側立体駐車場の営業を終了いたします。当院ご利用の皆さまにはご不便をお掛けしますが、今後は近隣の契約駐車場等のご利用をお願い申し上げます。



表紙を飾った静岡赤十字病院スタッフ

手術室看護師 左より
田山猛さん、安田史さん
畑山さつきさん、鈴木愛梨さん
森島藍さん

地域の中核病院としてさまざまな手術を執り行う当院で、安全・迅速な手術を支えている彼ら。手術室では現在29名が活躍中、術中の医師の介助や術前術後の患者さんのケアにあたっています。こぼれる笑顔にチーム内の雰囲気のよさが窺えます。





患者さんと医師との橋渡し役

医師事務作業補助者(医療秘書)の仕事を紹介します

外来で診察を受けている時、医師の傍らでパソコンに向かってスタッフの存在に気づいたことはありませんか。「医師事務作業補助者(医療秘書)」あるいは「医療クラーク」とも呼ばれる彼らは、医師が本来の業務に集中できるよう、事務面からサポートする大切な役割を担っています。

主な業務は電子カルテへの記載補助や代行入力、医療文書や書類の作成・管理など。多忙を極める医師の仕事ですが、彼らの存在によって事務作業面での負担が大きく軽減され、充実した医療の提供が可能となっています。

“縁の下の力持ち”として医療現場を支え、患者さんの回復にも貢献できるやりがいのあるこの仕事。現在当院では業務拡大のため一緒に働いてくれる方を募集中、興味を持った方はぜひ当院採用情報ページをのぞいてみてください。



こんな人たちが働いています

- ①現在35名が活躍中 20～50代と幅広い世代の方が働いています
- ②転職経験者が多い 「前職は証券関係」「イベント会社で働いてました」
- ③子育て中のママも活躍 家族の体調不良など、突然の休みもしっかりバックアップ

こんな人にピッタリ!

- ・コミュニケーションスキルが高く、医師や看護師との連携を円滑に行える
- ・新しい知識を積極的に学び、何事にも前向きに取り組める
- ・医療現場の役に立ちたいという意欲がある
- ・基本的なパソコン操作ができる

勤務2年目 秘書さんの1日に密着

8:30 外来開始

当日の予約状況や連絡事項などを医師と確認、準備が整ったところで診察をスタート。



14:30 お昼休憩

この日は普段より患者さんが多く、少し遅めの昼食。当院は食堂も充実!院内売店で焼きたてパンも買えます。ランチ後は休憩室でリラックス。



16:40 外来終了

この日は約90名の患者さんが受診。外来終了後は診察室を片付け、翌日の準備を行います。



17:00

残っている作業や書類を作成して業務終了。



INFORMATION インフォメーション

市民のみなさんともっとクロス!

第6回 市民公開講座開催のご案内

毎回好評の市民公開講座。今回は当院医師とともに慶應義塾大学より林田哲医師を招いた講演をお送りします。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

テーマ1

あなたに寄り添う
乳がんのお話
検診から治療まで

慶應義塾大学医学部
外科学(乳腺)教授
林田哲医師



テーマ2

乳がん治療における
最近のトピックと
当院の取り組み

静岡赤十字病院
乳腺外科副部長
菊池雅之医師



日時: 2026年3月26日(木) 15:00~16:15 (開場14:30)

会場: 札の辻クロスホール 静岡市葵区呉服町1-30 札の辻クロス6階(伊勢丹向かえ)

参加費: 無料

お問い合わせ: 054-254-4311 (代表) 地域医療連携課 市民公開講座担当

メールまたは電話による事前申し込みが必要です

●メールの場合

件名を「市民公開講座参加申込希望」とし、本文に必要事項(①氏名、②住所、③電話番号)を明記の上、chiiki@shizuoka-med.jrc.or.jp宛に送信して下さい。

●電話の場合

054-254-4311 (代表) 地域医療連携課まで「市民公開講座参加希望」とお伝え下さい。

暮らしに役立つ情報をおとどけ

しずおかクロス NAVI

地域医療への貢献を評価いただきました
令和7年度
救急医療功労者知事表彰を受賞



去る10月29日、静岡県庁にて行われた令和7年度救急医療功労者知事表彰において、当院が表彰されました。これは救急医療に10年以上の実績があり、救急医療やその普及に貢献した個人・団体に贈られるもの。当院では1992(平成4)年に救命救急センターを開設、2008(平成20)年には救急科を新設し、地域の第三次救急医療機関としての役割を果たしてきました。

当院2度目となる救急医療功労者表彰を受けて、救急科の大鐘副部長からは「地域の役に立てよう今後も努力したい」とコメント。このたびの表彰を励みに、これからもより安心安全な医療を提供できるよう力を尽くしてまいります。



日本赤十字社 静岡赤十字病院
Japanese Red Cross Society

〒420-0853 静岡市葵区追手町8-2 TEL.054-254-4311

<https://www.shizuoka-med.jrc.or.jp>

静岡赤十字

検索